

ヨシでびわ湖を守る
ネットワーク通信

22

VOL.



ヨシ原で見つけた新しい生命の誕生

6月の或る日ヨシ原を歩いていると、偶然見つけた野鳥の巣。

周辺ではギギーギョギョーと騒がしく鳴く鳥の声。

オオヨシキリの卵がヒナに孵っていたのです。

大急ぎでカメラのシャッターを切り撮影に成功しました。

春、ヨシ原ではいたるところで新しい生命が生まれています。目の当たりにすると、ヨシ原の大切さ、生物多様性の意味合いが少し分かったような気がしました。

私たちのヨシ刈り活動が、新しいヨシ原を再生し、そこには生きものが脈々と生きる営みを続けていることに感動をおぼえずにはいられません。オオヨシキリのヒナさんには失礼なことをしました。ごめんなさい。

びわ湖を知る ■ 問題



オオヨシキリがよく見られる季節はいつごろでしょうか？

- ① 3月ごろ
- ② 5月ごろ
- ③ 8月ごろ
- ④ 11月ごろ

特集 1ページ

滋賀県立琵琶湖博物館 上席総括学芸員

用田 政晴 様より



謎でなくなりつつある琵琶湖に沈んだ遺跡

【琵琶湖研究のおもしろさ】

琵琶湖博物館では、身のまわりの自然をじっと眺めたり、身近な歴史をふりかえり、それらを広い世界や長い時間の中で検証しようとしています。こうした今の日常的なことから、遠い地球上のどこかの話や大昔とを結びつけるところ、そんなギャップに琵琶湖研究のおもしろさがあるのです。

今日は、そんな知られざる琵琶湖にまつわる「謎」や「不思議」が、「謎」でなくなりつつあるというお話を紹介します。

【湖底遺跡とは】

琵琶湖の底には、かつての村の跡が沈んでいます。いわゆる「湖底遺跡」です。詳しくいうと、琵琶湖の基準水位である標高84.371mよりも深いところにあるかつての村の跡や土器・石器などの遺物の散布地のことで、その代表は北湖の竹生島沖にある葛籠尾湖底遺跡(ツズラオコテイセキ)です。

湖底遺跡は、現在では琵琶湖全域に114箇所が知られています。水位の標高84mというと、京都大丸の屋上、大阪城天守閣のてっぺんに相当するというと驚かされてしまいますが、それぐらい水位が高くないと琵琶湖の水は瀬田川—宇治川—淀川へと流れていかないわけです。そんな琵琶湖にある湖底遺跡は、1977年から始まった琵琶湖総合開発事業に伴う15年間の調査で、24万㎡以上が発掘され、多くの成果が知られるようになりました。そして、特に大昔の縄文人や弥生人の食生活も明らかになってきました。



葛籠尾湖底遺跡の遠景



葛籠尾湖底遺跡に沈む土器の展示(琵琶湖博物館)

【大昔の人の食生活】

琵琶湖博物館で展示しています大津市晴嵐沖合の粟津貝塚はその一つで、5000年以上前の縄文人は、クリやドングリを主食にしており、イノシシ、シカやフナ、コイ、ナマズ、スッポン、それにカモ、ハクチョウはおかずでした。もちろんセタシジミは春から夏にかけてだけのものでした。

また、守山市赤野井湾遺跡では、粟津貝塚より古い縄文時代早期末、約7500年前のフナやコイを石蒸し焼きにした跡が見つかりましたし、米原市入江内湖遺跡では、海のマグロの骨が5000年以上前の縄文時代の土層から発見されています。安土城の麓、小中の湖にあった竜ヶ崎A遺跡では、縄文時代末の土器の底に焦げ付いた2300年前

特集 2ページ

のキビが残っていましたし、近くにはドングリなどの木の実を貯えた穴が4つも残っていました。

食べ物ではないのですが、守山市小津浜遺跡では、琵琶湖周辺最古の部類に入る2千数百年前の田んぼ、長浜市尾上では同じ弥生時代の魚を捕るヤナ、赤野井湾遺跡では古墳時代のエリなど、祖先の日々の生業の跡も琵琶湖は今に伝えてくれています。

通常は、陸上の遺跡では土器や石器しか今日まで残らず、植物質のものや骨などは腐ってなくなってしまいますが、湖底遺跡では琵琶湖の水や堆積物が遺物を真空パックし、植物質食料の食べ残しまで残してくれます。貝塚などでは、貝からしみ出るカルシウム分が、魚の骨や天然真珠なども淡いピンク色に保つなど、良好な状態で保護してくれたのです。



粟津貝塚



粟津貝塚の展示(琵琶湖博物館)



湖底遺跡の展示(琵琶湖博物館)

【湖底遺跡の成因】

こうした湖に沈んだ遺跡の成因は、これまで琵琶湖の水位の上昇や大きな地盤の沈下で説明されてきました。筆者も、かつては琵琶湖から流れ出るたった一本の川である瀬田川が、土砂堆積などによって疎通能力が低下し、それに伴い琵琶湖水位が上昇したためと考えていました。しかし、3年前に琵琶湖博物館で開催したシンポジウム『湖底遺跡の探検～湖に沈んだ村を科学する～』では、考古学者の県立大学林博通さんと地質工学者の京都大学釜井俊孝さんや大阪市立大学原口強さんらは、共同研究によって琵琶湖のまわりのいくつかの中世の村は、ほぼ平坦なところでも地震によって起こった大規模な地滑り(側方流動)が原因で湖に沈んだと発表しました。

これを機会に、多くの湖底遺跡についても大地震による影響の可能性を追求しなくてはならないようになってきたのです。



中世の村:三ツ矢千軒から引き揚げた石仏



湖底遺跡シンポジウムの様子

ネットワーク 広場

株式会社 ラーゴ
濱田 知宏 様より



「生物多様性って、なんですか？」

～身近な生きものを通じた魅せ方、伝え方～

地球には数億年という長い年月をかけて、周りの環境や他の生物との関わり合いに適応しながら多様な生命が生まれました。これらの生命ひとつひとつに個性があり、直接的・間接的に関わり合ってその土地ならではの生態系を築いています。生物多様性とは、「地域の生物たちの豊かな個性と、そのつながり」であるといわれています。

「豊かな個性とそのつながり」・・・イメージすることはなかなか容易ではありませんね。そんな時は、身近な生きものたちを探してみてください。雨上がりの道路にはアマガエルがいます。かじこまってお辞儀をしているようにも見えますが、小さな獲物が来るのを待っているのでしょう。畑ではモンシロチョウがアブラナの花の蜜を吸っています。その顔は花粉でいっぱいです。次の花に移る時には、たくさん花粉を運んでくれそうですね。庭のウメの木にはシジュウカラがやって来ました。枝から枝へせわしく飛び移り、天敵の目を気にしながら餌を探しています。



身近な生きものたちも、よ〜く見ると実に豊かな色や形をしています。そして見た目だけでなく、その行動もまったく同じものはありません。そしてその行動は他の生きものたちと深く関わっています。食べる・食べられるはもちろん、花粉やタネを運んでもらう、棲み家を提供してもらうなど、つながりがないと生きてはいけません。

『動植物の専門家であるラーゴのスタッフが、皆様のお手伝いをします。』

「生物多様性って、なんですか？」という質問をよく耳にします。企業において生物多様性保全の取り組みをされている中で、その答えに悩まれている方も多いと思います。ラーゴでは、絶滅危惧種の保全やビオトープの造成、外来生物の駆除等、様々な活動のお手伝いをしていますが、どんな活動であってもまずは生物調査をおすすめしています。まずは身近な生きものたちにスポットを当てて彼らのユニークな世界を知り、その魅力あふれるストーリーを紐解いてみてはいかがでしょうか？

とにかく自分たちがファンになってみるのが大事です。きっとそこから新しいアイデアが生まれるでしょう！

ネットワーク アルバム

ヨシでびわ湖を守る ネットワーク

外来魚駆除釣り大会：伊庭内湖 6月13日(土)



ほとんどブルーギル




参加賞は「とび太くん」ノート
でした。皆さん(*^o^*)

天候は晴れ、魚釣りにはちょっと良すぎる天気かな・・・
釣れるかな～？ の予想に反して次々と獲物が持ち
込まれ450匹を超える外来魚が回収されました。
今年もびわ湖固有の魚を脅かす外来魚をたくさん捕獲できました。
参加された皆さん(家族連れも多数)はゆったりとした時間の中で釣りを楽しま
れたことでしょう。 ※ネットワーク参加者138名 総勢約250名

カヌーに乗ってヨシ原観察：西の湖 8月1日(土)



夏真っ盛り！
カヌーと和船に乗ってヨシ原を観察しました。
爽やかな風に吹かれ湖面すれすれからヨシ原を
探検すると遠い昔と変わらぬ風景が広がっていま
した。皆さん時を忘れて大はしゃぎ・・・
しかし暑かったです。

びわ湖を知る ■ 解答 

②

4月下旬ごろから飛来し6月にかけて
繁殖する夏鳥だそうです。

みんなの リエデン

琵琶湖には
こんな魚がいたんだ！
琵琶湖と川の魚がノートに集結！

滋賀らしい新商品
続々登場！



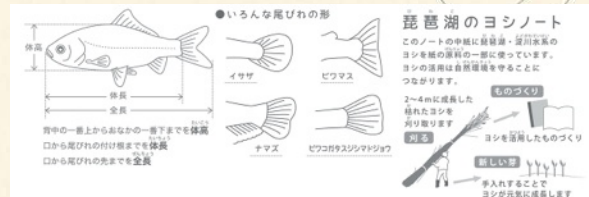
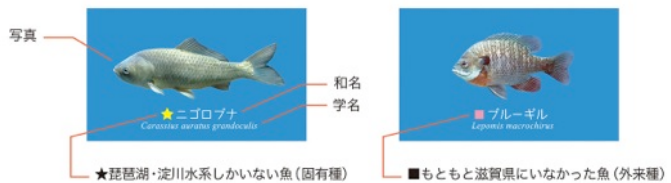
滋賀のお魚ヨシノート

滋賀県立琵琶湖博物館と
コラボしたノートができました！
サイズ：セミB5(252×179mm)
罫線：5mm方眼
(10mm実線入り)
枚数：30枚



●表紙には、滋賀のお魚77種が大集合！

●表紙裏には魚の豆知識やヨシノートの説明を記載



2015 滋賀びわこ総文 × ReEDEN

7月に滋賀県で行われた高校生最大の文化の
祭典「2015滋賀びわこ総文」の実行委員会の
高校生達と共同企画したノートができました！

高校生との
活動の軌跡



滋賀の四季

春 色名：びわ恋 夏 色名：風薫る



秋 色名：紅さす 冬 色名：葦の音



¥120
(税抜)

A6

「滋賀を愛する
滋賀県ノート」



ザ・滋賀県ノート



色名：びわこ

B5

¥160
(税抜)